

特集

批判的实在論 とは何か

批判的实在論は、イギリスの哲学者 Roy Bhasker により、1970 年代に提唱された科学哲学です。今日ではイギリスを中心にヨーロッパ、アメリカ、アジアなど広い範囲にわたり、社会学や経済学、社会福祉学などさまざまな学問領域の基礎理論として関心が高まっています。日本でも目下、批判的实在論に関する主要な著作の翻訳が着々と進んでいます。

修正版グラウンデッドセオリーアプローチ (M-GTA) を開発した木下康仁先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科特命教授）も、近年この科学哲学のもつ重要性を見だし、看護研究におけるメタ理論としての大きな可能性に着目しています。2019 年からの科研「看護学のメタ理論としての批判的实在論の可能性」では、研究会を立ち上げながら現在も探究を深めており、2020 年の著作『定本 M-GTA』の最終 chapter でも、批判的实在論を軸に M-GTA との関係や質的研究のこれからを展望しています。

本特集では、この批判的实在論を大きくクローズアップします。木下先生の最新の論考を中心に、現在の研究状況、看護学と社会福祉学からの考察を通して、批判的实在論という科学哲学のエッセンスと意義を紹介し、看護研究における可能性について探っていきます。

『看護研究』編集室

企画：木下康仁 聖路加国際大学大学院看護学研究科特命教授

- ・ 木下康仁 (2020). 定本 M-GTA——実践の理論化をめざす質的研究方法論. 医学書院.
- ・ 科研 19K10814 基盤研究 (C) 「看護学のメタ理論としての批判的实在論の可能性」 (研究代表者：木下康仁)